



片桐勝彦の

# バイレ フラメンコ

Acompañamiento del baile

著者プロフィール: 日本を代表するフラメンコギタリスト。幼少の頃よりヴァイオリンを始め、その後ギターを独習。A-JARIやチリクマルカ等のグループ活動を経て、明治大学在学中にフラメンコギターを始める。98年から長期渡西。マドリードのタブラオ「カサ・パタス」やセビージャのラジオ番組などに出演。帰国後はカニサレスとの共演やNHK「音楽のある街で」出演。主な参加CD・DVD: 風回廊(渡辺えり)、天国を見た男(沢田研二)、Boy (coba) 他。Estudio ROMERO主宰。

VOL.16

## 2拍子系の曲種

～はじめに～ 昨年の4月からソレア、アレグリアス、ファンダンゴ・デ・ウエルバ、グアヒーラ、そしてシギリージャといった3拍子系の曲種を踊るため(または踊りをギター・歌・パルマなどで伴奏するため)に必要な約束事や注意点などを、細かく確認してきました。今月からは2拍子系の曲種を取り上げますので、実践に役立つようお読みください。

### 2拍子(4拍子)系の曲種

曲種(パロ)の分類で一般的なのは、①ソレアやタンゴなどヒターノ色が強いもの、②ファンダンゴなどアンダルシア起源のもの、③中南米から里帰したものの三つに分けるやり方です。この場合②だけには2拍子系の曲種がなく、すべて3拍子系か自由リズムの曲種になります。なぜならアラブ人が去ったレコンキスタ後のアンダルシアには、もともと3拍子の文化が根強かったからだと言えます。しかし②に属するタラントだけは近年2拍子系で踊られるようになりました。と言ってもタラントはファンダンゴ系の曲種なので、リズムを大きく2拍子で取った中には細かい3拍子が隠されています。タラントは違う月に詳しく取り上げるとして、まずは①のタンゴ系の曲種から見いきましょう。

#### ワンポイント→踊り

一般的に2拍子系は2拍子・4拍子・6拍子・12拍子、3拍子系は3拍子・9拍子に分けられますが、フラメンコでは6拍子・12拍子も3拍子系に属して分類されます。

#### フラメンコの曲種

音階やリズムではなく、各曲種の成り立ちで分けると下記のようになります。分類の仕方は諸説ありますので、各自調べてみてください。

##### 〈ヒターノ(ジブシー)の影響が強い曲〉

シギリージャ系: トナ、マルティネーテ、デブラ、カルセレーラス、シギリージャ、カバーレス、リビアーナ、セラーナ  
ソレア系: ソレア、カーニャ、ポロ、ブレリア、アルボレア、ロマンセ、アレグリアス、ロメーラ、ミラプラス、カラコレス  
タンゴ系: タンゴ、ティエント、マリアーナ、サンブラ、(タンギージョ、サパテアード、ファルーカ、ガロティン)

##### 〈アンダルシアの民謡がフラメンコ化した曲〉

ファンダンゴ系: ファンダンゴ、ファンダンゴ・デ・ウエルバ、ファンダンゴ・デルセーナ、マラゲーニャ、ベルディアールス、ハベーラ、グラナイーナ、ロンデーニャ、タランタ、タラント、カルタヘネーラ、ミネーラ、ムルシアーナ  
その他: バンペーラ、ペテネーラ、ナナ、ソロンゴ、カンパニジェーロス、ビジャンシーゴ、セビジャーナス(サエタ)

##### 〈中南米から逆戻りしてフラメンコ化した曲 (ida y vuelta)〉

グアヒーラ、ミロンガ、ビダリータ、ルンバ、(コロンビアーナ)

## タンゴ系の曲種

### タンゴ(tangos)

タンゴはカフェ・カンタンテより前の時代、1840年代に中南米から港町カディスにもたらされました。アフリカ系移民の持つ2拍子のリズムは中南米で成熟し、その後スペインの3拍子系ハレオの中に新しい感覚で入り込んでいってフラメンコ化したと考えられます。カディスのタンゴはミの旋法、セビージャのトゥリアーナではティティのタンゴのように短調の音階が代表的です。その他のエステロ(スタイル)でよく踊りに使われるものとしては、タンゴ・デ・グラナダ、スルタナ、レボンバ、ピジャージョ、エストレマドゥーラなどが有名です。1コンパスは8拍で、4拍目と8拍目にアクセントがきます(譜例1)。

#### 譜例1



### ティエント(tientos)

タンゴをゆったりとしたリズムで歌いあげて出来た曲種で、当初はタンゴ・ティエントと呼ばれていたようです。名前の由来はラテン語のtemptare(手探り、試す)からだとする説もあります。創唱者はカディスのエンリケ・エル・メジソ(1848-1906)で、その後アントニオ・チャコン(1869-1929)やマヌエル・トーレ(1878-1933)、ニーニャ・デ・ロス・ペイネス(1890-1969)らによって広められました。8音節4行詩(2歌で3行詩を歌うことも多いです)で、その後に3行詩のエストリビージョが付けられます。歌の長さはほぼ一定なので、踊るには比較的わかりやすい曲種といっているかもしれません。最後には盛り上がってタンゴの歌が来ることがほとんどです。詳しくは来月号で取り上げます。

### タンギージョ(tanguillo)

文字通り小さなタンゴ(タンゴの縮小形)という意味。カディスのカーニバルで毎年歌われ、ペリコン・デ・カディス(1901-1980)やチャノ・ロバート(1927-2009)などカディスの歌手が特に有名です。タンギージョ・デ・カイ(カディス)はスペイン全土で歌われていて、私がマドリードに住んでいた時にフラメンコをよく知らない人たちもタンギージョ・デ・カイだけは皆歌詞を知っていたのには驚きました。リズムは4分の2拍子(譜例2a)を基本としながらも、4分の3拍子(譜例2b)を同時に感じると理解しやすいです。つまり8分の6拍子で1と4拍目(2拍子)、1と3と5拍目(3拍子)にアクセントを置くと、タンギージョの持つリズムやノリに近づけるかもしれません(譜例2c)。

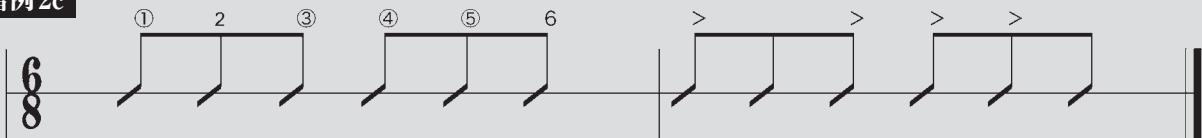
#### 譜例2a



#### 譜例2b



#### 譜例2c



### サパテアード (zapateado)

歌はなく、足の技術すべて(プンタ、タコン、プランタ、ゴルペなど)を使って踊られる長調の曲種ですが、ギターソロも踊りも最近では演じられることが少なくなってきています。リズムはタンギージョをさらに激しくはっきりとした感じで、同じタイトルのサラサーテのクラシック曲を用いて踊られる場合もあります。

### タンゴ・デル・ピジャージョ (tango del Piyayo)、タンゴ・デ・マラガ (tango de Málaga)

この曲種を踊る場合、日本ではタンゴ・デ・マラガということがほとんどですが、実際に歌振り部分ではタンゴ・デル・ピジャージョが歌われます。マラガのタンゴは港町ということもあって、そのほとんどがガロティンのような明るい和音で伴奏され、メロディーも明るい長調の音階で歌われます。ピジャージョのタンゴも基本はメジャーキーですが、マイナーで歌われる箇所やそのしっとりとしたテンポが踊りに相まって近年ではその全てがマイナーキー(短調)で歌われることが多くなっています。

### サンブラ (zambra)

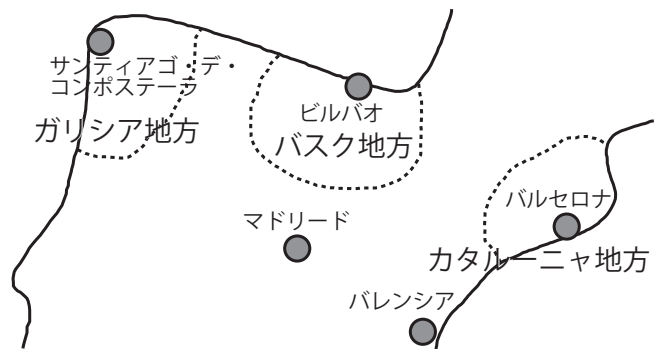
グラナダ・サクロモンテのタンゴと、マノーロ・カラコル(1909-1973)が歌ったコプラの2曲があります。また変則チューニング(6弦をレ、更に3弦をソ♭に下げる)でアラブ音楽風に弾かれるギターソロなどをダンサ・モーラということもあります。

この他タンゴ系の曲種には、ソレアのキーでティエントのようにゆったりしたリズムを持つマリアーナ (mariana) などがあります。

## スペイン民謡、又は外来のものがフラメンコ化した曲種

### ファルーカ (farruca)

リズムなど音楽的にはタンゴに分類されますが、ファルーカの起源はガリシア地方だと言われています。当時ガリシアやアストゥリアスなど北西スペインからアメリカ大陸やアンダルシアへ移住した人たちのことをファルーコと呼んでいたことや、旋律や歌詞もガリシア地方のものとの関連性が深いからです。カフェ・カンタンテの後に流行したフラメンコ・オペラの時代(1920～)にファイコ(フランシスコ・メンドサ・リオス 1870-1938)がラモン・モントージャ(1880-1949)の伴奏で劇場や闘牛場などで踊って人気を博しました。



### ガロティン (garrotín)

ガロティンもファルーカとともに、そのリズムや音楽的特徴からタンゴに分類されます。アストゥリアスからバスクを経てカタルーニャまでの北スペイン各地の民謡がガロティンの起源とされていますが、一方グラナダ・サクロモンテのタンゴとの関係性なども指摘されています。そして20世紀に入ってラ・ニーニャ・デ・ロス・ペイネス(1890-1969)やマヌエル・トーレ等が歌うことで、よりフラメンコ化されました。踊りはファルーカ同様、ラモン・モントージャの伴奏でファイコが踊り始めました。

## ルンバ(rumbas)

キューバのアフリカ系奴隷の人たちから生まれたスピード感のあるリズム(キューバの音楽については4月号のグアヒーラで詳しく説明していますので参照してください)で、カディスからアンダルシア全域、さらにはカタルーニャやマドリードにまで広まりました。初レコーディングは1918年のラ・ニーニャ・デ・ロス・ペイネスによるもの。踊りはグラン・アントニオ(1921-1996)やラ・チュンガ(1938-)が有名です。

また、カタルーニャのルンバ(ルンバ・カタラーナ)には独自のスタイルがあって、その後1980年代のワールドミュージックブームも伴って、国境を越えて南フランスのグループ、ジプシー・キングスが「ジョビ・ジョバ」や「バンボレオ」などの曲を世界的に大ヒットさせます。

1コンパスは8拍で、キューバのソンのリズムのように2拍目の裏にアクセントがきます(譜例3)。

### 譜例3



この他中南米からの曲種には、ミロンガ(milonga)、ビタリータ(vidalita)、コロンビアーナ(colombianas)などがあります(実際にはコロンビアーナは、中南米の雰囲気のみを借用してできた曲種です)。

### フラメンコの音階(旋法) 2拍子系の曲種

#### ミの旋法(modos de mi, modal)

タンゴ、ティエント、タラント



#### 長調(mayor)

ガロティン、タンギージョ、  
サパテアード、コロンビアーナ



#### 短調(menor)

ファルーカ、ミロンガ



音階や調性をわかりやすくピアノの白鍵だけで説明すると、ミの旋法はミファソラシドレミ、長調はドレミファソラシド、短調はラシドレミファソラになります。

来月はティエントを取り上げます。お楽しみに！

音源は片桐勝彦HPで聴けます！ URL <http://www.toshima.ne.jp/~kata/katsu>  
同内容のバルマクラス、スタジオロメロで開催中。7月6、20日、20:40～終電ぐらいまで